

「Web2.0」と北の道ナビ ～最近の取組みと今後の高度化に向けて～

寒地ITSワークショップ
平成19年8月29日

(独)土木研究所 寒地土木研究所
上席研究員 加治屋安彦
(雪氷チーム&地域景観ユニット・リーダー)

Sapporo
Tokyo

CERI 寒地土木研究所 寒地道路研究グループ
<http://www2.ceri.go.jp>

Northern Road Research

■「Web2.0」とは？

- インターネットの普及→情報発信・検索コストの極限までの低下→**ともかくにも情報発信！**
- 情報を発信する人と探している人のマッチングや同好の士を集めることを極めて容易に！
- 人間は、自分が他者とは異なることを表現して自己実現を図り、また他者との関係性において自分の存在意義を見出そうとするもの→**ブログやSNSの普及**
- 誰でも専門知識なしで自由に情報発信できる→未整理な情報の氾濫→他者の評価や権威ある人の評価が気になる→**口コミサイトやカリスマ消費者の人気**
- 整理された価値ある情報を作り出す作業に自ら“参加・貢献”→共感できる“集合知”を作り、利用できることの発見と感動

■「Web2.0」のドライブ情報への影響(2)

- “共感できる情報提供”：“高速道路ヒヤリマップ”～誰も経験したことがあり、事故防止に役立つ情報
- “集合知の利用”：宿泊予約サイトにおける他の消費者の評価
→ドライブ計画を練る際にも穴場情報や地域の生きた情報が知りたい
→“日産・カーウィングス”では、RSS（ニュースやブログなど各種のウェブサイトの更新情報を簡単にまとめ、配信するための幾つかの文書フォーマットの総称）により自治体ホームページ等から旬な地元観光情報を収集、クルマの位置に応じてカーナビで提供

■北の道ナビ アクセス状況（2） ～海外からのアクセス～

4ヶ国語対応

英語
韓国語
中国語（簡体字）
中国語（繁体字）

約1.5倍

- 2007年6月 約5,000件/月
- 前年同月比で約1.5倍！
- 特に中国語(繁体字)ページへのアクセス増加が著しい！

■「Web2.0」とは？

4 ユビキタスネットワークによる新しい潮流 (1) Web2.0による新しい潮流

H18情報通信白書より

ユビキタスネットワークの進展による利用者のすそ野拡大に対応した新しいコンセプト「Web 2.0」が図9、OWeb 2.0とは異なる新しいウェブの世界を構築する概念。ウェブをプラットフォームとして、「利用者参加」と「オープン志向」により、多様な知識の集積と様々な協働（コラボレーション）を実現。〔図15〕

→ 典型例として、不特定多数の利用者により共同制作されるフリーの百科事典「ウィキペディア」がある。〔図16〕

図15 Web2.0の概要

基本コンセプト
インターネットの潜在的な能力を有効に活用することによって、従来(Web1.0)とは異なる新しいウェブの世界を構築する概念。ウェブをプラットフォーム（共通基盤）化することで、ソフトウェア等の区別による制約を排除し、多様な知識の集積、多様な形態の協働を実現。

特徴
①利用者参加：消費型発信型メディアによる情報発信
例：ブログ、SNS、ポータルサイト等（Web2.0）
②オープン志向：蓄積された情報（データベース）及び情報技術等の公開
例：Google、Amazon等のデータベース及びAPI（自社システムへのアクセス方法等）の公開

ロングテール現象
Web2.0の特色を活用し、多様で多岐にわたる商品・サービス（ロングテール）の市場化
例：Amazonの書籍販売（従来の売上の約3分の1が、一般の書店では販売困難な書籍）
Googleの広告商品（多数の消費型発信型メディア（ブログ等）を広告対象）

図16 ウィキペディアの概要

ウィキペディア (Wikipedia)
インターネット上の不特定多数の利用者によって共同制作されるフリーの百科事典
★誰でも随時、項目の追加や内容の追記・修正を行うことが可能
★一つの項目について多くの人が関わることで、絶えず改善・成長
★無料でありながら、既存の辞書にはない幅広い情報をカバー

ウィキペディア
インターネット
追加・修正
削除
更新

■「Web2.0」のドライブ情報への影響(1)

- “利用者参加”：テレマティクス・サービス各社が会員の車両走行情報をプローブ情報として利用
“ホンダ・インターナビ”では災害時に活用→通行できない箇所や通行可能な道路をいち早く情報共有
- “オープン指向”：Googleが自社のマップシステムのAPIを公開→これを用いたドライブ情報サイト多数
→“しりべしネット” “秋田つるつる路面ナビ”
NEXCO東日本では、ブログ向けに高速道路料金検索パーツを無償提供
- “参加・貢献・共感”：“とるば” 写真を撮るパーキング～利用者からの投稿という形式→投稿者自らが仲間に伝えてサイトを広く周知

■北の道ナビ アクセス状況（1） ～TOPページのアクセス～

- 1999年7月の開設以来8年が経過
- 2006年度の年間アクセス件数は140万件超
- 2006年度の日平均アクセス件数は3,900件超
- 2006年度の距離と時間検索の使用回数は250万回超

northern-road.jp/navi/

■「北の道ナビ」～“オープン志向”の取組み

- 距離と時間検索の出発地や目的地を固定したリンクAPIの外部提供
<http://northern-road.jp/navi/time/?arr=019002>
例) 目的地＝道の駅スタープラザ

「北の道の駅」（北海道地区「道の駅」連絡会HP）の例

目的地が「道の駅スタープラザ」になった距離と時間検索ページを表示

当該道の駅を目的地や出発地にしたリンク

■まとめと今後に向けて

- 利用者は、自らが“参加・貢献・共感”できる情報提供を望んでおり、価値ある情報を他の利用者と共有したいと強く望んでいる。そうした“共感できる情報提供”が今後のドライブ情報提供には欠かせない要素になる。
- ドライブ情報提供の分野では、まだ“集合知の利用”まで至っている事例は少ない。快適はもとより、安全・安心に関する情報についても、“集合知の利用”ができるような情報提供の取り組みが今後求められる。
- 「北の道ナビ」でも、“オープン指向”や“参加・貢献・共感”の情報提供を一段と進めるとともに、「距離と時間検索」の高度化などを通じて、利用者が共感できる情報提供を模索していきたい。
- 最後に、ご協力いただいた利用者各位に感謝の意を表す。

おわり

Northern Road Research

“北の道リサーチ”

寒地土木研究所 寒地道路研究G

www2.ceri.go.jp

寒地道路研究Gへのお問合せは
road@ceri.go.jp